

浮遊カビ A 除去評価試験※

※浮遊カビAは社内の識別記号であり特定のウイルス・菌名をあらわすものではありません。

目的

空気消臭除菌装置によって1m³空間の浮遊カビに対する除去効果を評価する。

試験方法

- ①試験機関：一般財団法人北里環境科学センター
- ②識別番号：北生発 2018_0288号（報告書番号）
- ③試験種類：集塵
- ④対象分類：カビ
- ⑤試験対象：アオカビ孢子
- ⑥試験品：空気消臭除菌装置：MC-S1（ブルーデオ）
- ⑦試験条件：光源（ブルーデオに内蔵）風量（運転モード”強” 0.4 m³/min）
：チャンバー容積（1 m³）
：作用時間（10分、30分、60分）
- ⑧試験方法：1m³試験空間内でブルーデオを強モードで稼働し経過時間ごとに浮遊カビを測定
JEM1467家庭用空気清浄機 附属書D「浮遊ウイルスに対する除去性能評価試験」を参考

試験結果

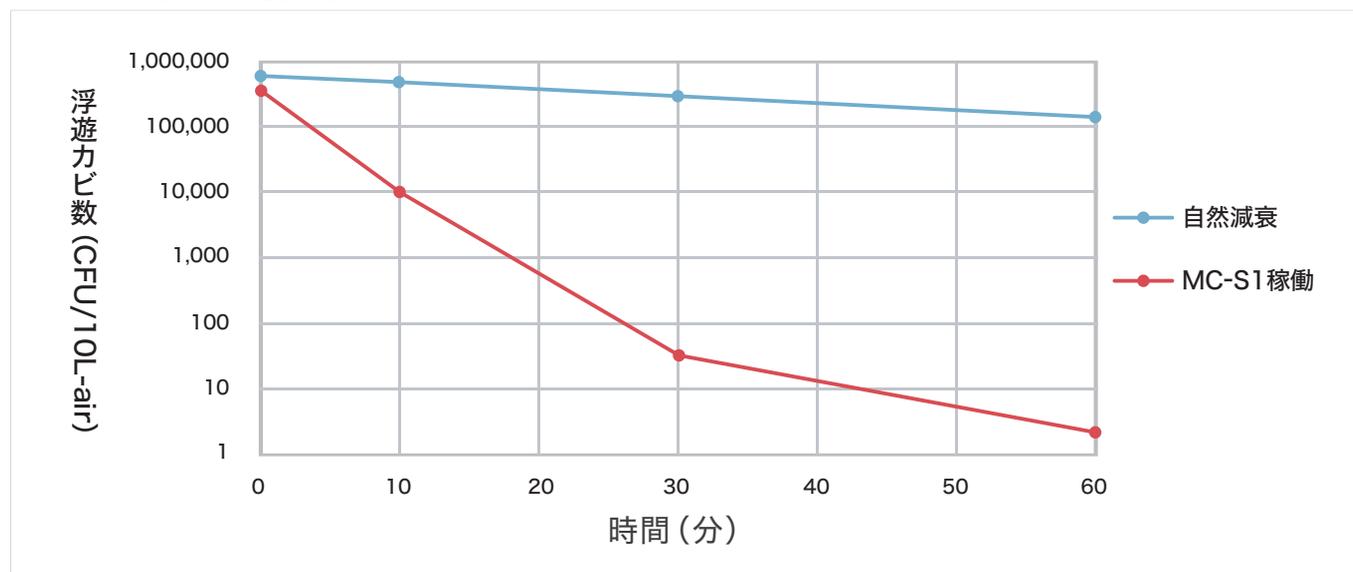
MC-S1による経過時間ごとの浮遊カビ数を示した。

経過時間ごとの浮遊カビ数

単位：CFU/10L-air

	0分	10分	30分	60分
自然減衰	570,000	470,000	280,000	140,000
MC-S1稼働	340,000	9,800	30	<2

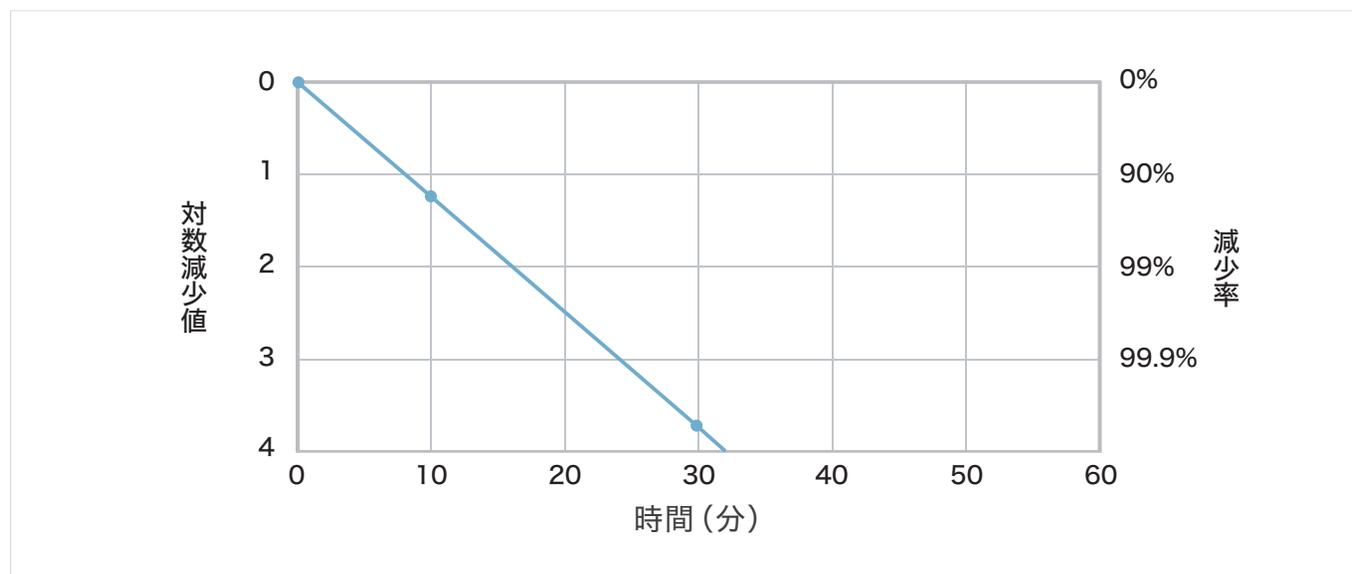
※<2 は検出限界未満を表す。



経過時間ごとの自然減衰とMC-S1の浮遊カビ数から計算した対数減少値と減少率を示した。

経過時間ごとの浮遊カビ数の対数減少値と減少率(%)

	0分	10分	30分	60分
対数減少値 (減少率)	0.00 (0%)	1.23 (94%)	3.70 (99.98%)	>4.00 (>99.99%)



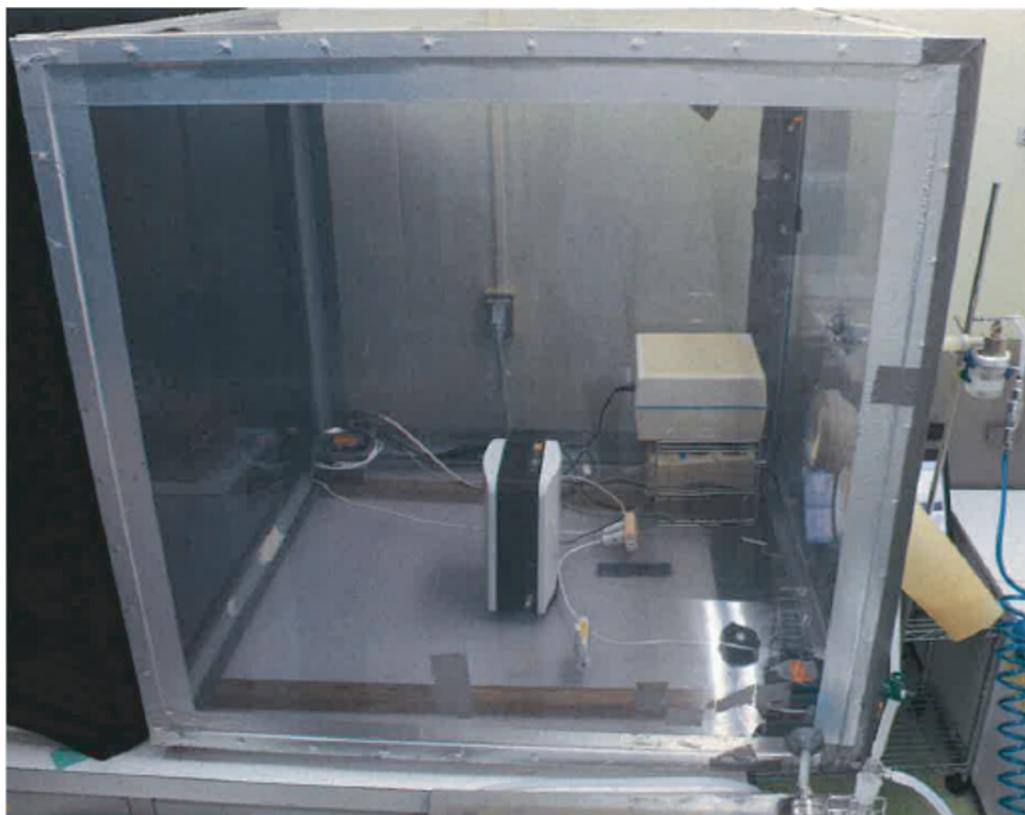
本試験によって得られた試験品による対数減少値(減少率)は30分で3.70(99.98%)となった。

対数減少値(減少率)が2.0(99%)以上となり浮遊カビに対する除去性能があると認められた。

また、対数減少値(減少率)が2.0(99%)となる時間は、17分であった。

注) 研究試験データであり、実使用環境での効果を示すものではありません。

試験風景



1m³試験チャンバー内の様子 (中央に空気消臭除菌装置を設置)